

## 水稲

**プレミアム88(高品質米)を目指すために適期中干しを実施しましょう!!**

### ■中干しの効果

高品質米生産のためには、適正な籾数に制限することが重要です。そのため、過剰な分けつを抑制するために、田植後1カ月ぐらいをめどに適期中干しを実施しましょう。

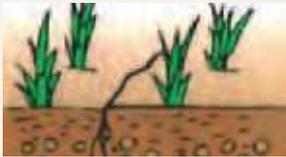
中干しは、風通しを良くし、光が株元に届きやすくし、土壌に酸素を供給することで、根を活性化させます。

### ■中干しの程度

中干しの程度  
**注意** 軽く足跡がつく程度



半湿田では足がしずむ程度  
4~5日間隔



乾田では弱いヒビが入っている  
2~3日間隔



### ■中干し時期の茎数(ロシヒカリの目安)

1株当たりの茎数	栽植密度(坪)
20本	50株
17本	60株
14本	70株

### ■溝切り

◎溝切りを行うことで、入水・落水が容易になり、胴割米の防止と粒厚の向上につながります

◎確実な溝切りにより、地耐力が増し落水時期を遅らせることができるので、今後のカドミウムの吸収抑制・水管理技術に効果があります。

◎中干し以降から幼穂形成期までは、常時湛水せず、土の表面が見えたら水を入れ、これを繰り返します。排水口の板は必ず閉めて、水深3cm程度となれば、必ず水を止めます。



5m~10m間隔で溝切りを!!

## 水稲カドミウムリスク対策情報「湛水管理」に向け、適期作業を

出穂前後各3週間の時期になると湛水管理作業が始まります。

湛水管理は、**玄米中カドミウムの吸収を抑制するための重要な技術です。**今後、水管理・湛水管理がスムーズ(効率的な水利用)となるよう、作業の実施をお願いします。

### ① 適期中干し・溝切り

★中干し作業は、地耐力を向上させる唯一の手段です!



### ② 畦畔等の水漏れ再確認漏水防止

★作付後に、田んぼの漏水状況を見回り効率的な水管理・湛水管理が実施できるよう事前に点検しましょう。



- 排水口の止水板管理
- 畦からの漏水(ネズミ・モグラ穴からの漏水)
- 低くなった畦からのオーバーフロー
- 構造物・暗渠排水管まわりからの漏水